

04

データ/デジタル技術を
活用した打ち手の
実現可能性を検証せよ



はじめに：本パートで学べる内容

本パート「**データ/デジタル技術を活用した打ち手の実現性検証**」では、前演習で定めた打ち手に対して、部分的に実現性を検証するために必要なスキルを学ぶことができます。

(具体的には、以下の内容を学びます)

- 打ち手の実現性検証の手順、具体例
- 考察・まとめ方

補助が必要な方は、「DX初学者ガイド」をご参照ください

**企業へのデータ/デジタル技術を活用した打ち手の
実現性を検証するために必要なことを、
このパートを通じて理解しましょう！**



Additional Story

ヒアリング・データ分析によって課題をまとめ、その解決の方向性を模索していた頃、真鍋は前橋社長から呼び出され、社長室へ向かった。

前橋社長

「榛原工場の現状を分析してくれていることを聞いているよ。早速ありがとう。洗い出してくれた改善点についてぜひとも取り組みたいのだが…効果が確約されていないものに何百～何千万と投資するのは気が引けるので、**次は考えてもらった打ち手が本当に有効なのか、クイックに検証してもらえないだろうか。**その際、**最初はコストを掛けずに検証してもらえると助かる**のだが。そこで**もし効果が確認できれば、投資費用も捻出しようと考えている**」

真鍋は頷きながら、この後取り組む“データ/デジタル技術を活用した打ち手”検証の方向性について再考の必要性が無いかを考えていた。さらに前橋社長からの要望は続く。

前橋社長

「とはいえ、わが社は今窮地に立たされているため、**できる限り短期的に効果が得られる施策があるならば優先したい。**そのための少額投資は許可する。ただ、希望を言うなら、**その取っ掛けりの施策が中長期的に見ても波及効果が期待できるものであるとなお良い。**他業務への展開とかね。**定量的に成果が確認できるのならば手段は問わない。**ただし、最初から本格的なシステム構築を提案されても困ってしまうので、そこはうまく考えてほしい！私の期待値を汲み取ってちょうどよい提案をしてくれるものと期待しているよ、よろしく頼む。」

さて、この後取り組むPoC（デジタル検証）では、具体的に何を検証し、どんな成果を導出するべきだろうか？

ヒント

PoCとは

- DX導入プロジェクトの文脈におけるPoC (Proof of Concept)とは、DX施策の本格導入の前に、プレ検証を行い、効果や技術的課題を特定の上、本格導入の実現性を検証する工程のこと

演習04の進め方



課題

今後の進め方

演習03では、データ/デジタル技術を活用し解決に取り組んで頂く課題について、**打ち手の検討を行いました。**

演習04では、**2週間で**演習03で出てきた打ち手の中の1つについて、**実際にデジタル/データを駆使して検証 (簡易的なPoC) を行って頂きます**

- その後演習05では、**1週間で**演習04の検証結果 (PoC結果) に基づく**DX導入・展開計画**を立案して頂きます
- 演習06では、**1週間で**演習01~05の検討内容を整理し、意思決定者に向けたプレゼンテーション資料を作成頂きます

演習04の進め方

演習04では、検討した打ち手のうち最低1つについて、2週間で検証 (簡易的なPoC) を行って頂きます

演習03のCで検討した、データ/デジタル技術を活用した打ち手のうち最低1つを選択してください

- 時間が許せば、1つ以上の打ち手について、検証を進めて頂いても構いません
- 他の受講生が具体化した打ち手 (演習02、03の結果) を採用し、本演習を進めて頂いても構いません

上記について検証を行い、取り組む価値がある打ち手か、定量的に説明できるよう、結果を整理をしてください

- 検証観点は、「実現可能性」と「ビジネスインパクト」の2つを意識してください

なお、本章での使用ツールに制限はありませんので、自由に検証を進めてください

- Excel、プログラミング、AIモデル構築、SaaS (有償・無償も自由)、データ分析、可視化ツール ...etc

PoCを進めた結果、望ましい結果が得られない/推進不可であることが分かった場合には、演習03で検討したその他打ち手や、演習03解答例にある打ち手の中から、別のものに変えてトライしてみてください



提出物

本章の成果は、次ページの「解答の枠組み」を埋める形でご検討ください

- 複数の打ち手の検証に取り組んだ方は、「解答の枠組み」を複数枚ご提出ください
- バックアップとして、PPT/ワード/エクセルなどの資料を付けて頂く分には、問題ございません

提出後、解答例を見ることが出来ますので、参考にしてください **※ 本パートでは、提出物に対する評価はありません**

演習04: 解答の枠組み

解答の枠組み(図の挿入など、必要に応じて改変していただいて構いません)
複数の打ち手に対してPoCを行った場合には、複数枚提出してください。バックアップは、自由につけてください

今回のPoCで検証した打ち手
(演習03-Cから1つ)

XXXXX

目的・範囲

何を明らかにするための検証を行ったか？

- 1)検証の目的
 - XXX
- 2)検証の範囲
 - XXX
- 3)検証方法
 - XXX

※項目は一例。修正可。

実施概要

具体的に、何を行ったか？

- 1)検証手順
 - XXX
- 2)検証環境
 - XXX
- 3)その他、検証実施における前提など
 - XXX

※項目は一例。修正可。

結果・考察

どのような結果・考察が得られたか？

- 1)検証結果
 - XXX
- 2)実現性の評価
 - XXX
- 3)ビジネスインパクトの評価
 - XXX
- 4)今後に向けた考察
 - XXX

※項目は一例。修正可。

参考) 演習04: 解答の枠組み (記載例)

解答の枠組み(図の挿入など、必要に応じて改変していただいて構いません)
複数の打ち手に対してPoCを行った場合には、複数枚提出してください。

今回のPoCで検証した打ち手 (演習03-Cから1つ)	XXXXX
--------------------------------	-------

目的・範囲 何を明らかにするための検証を行ったか？

- 1)検証の目的
- XXXを使ってXXX機能を実装できるか?
 - できる限りXXXを抑えつつ、精度高くXXXを予測可能なSaaSソリューションがあるか?
 - 現状保持データで、妥当な結果が得られるか?
 - ...etc
- 2)検証の範囲
- XXXデータによる、XX～XXの期間を対象とする
 - XXXは検証対象外とする
 - ...etc
- 3)検証方法
- XXX
 - ...etc

実施概要 具体的に、何を行ったか？

- 1)検証手順
1. 分析用データセットの作成(前処理)
 2. XXXの実装, XXXの試用検証
 3. XX精度の検証
 4. ビジネスインパクトのシミュレーション
 5. ...etc
- 2)検証環境
- Excel(Microsoft 365 MSO (16.0.14326.20936))
 - XXXX (実際のSaaSソリューション名)
- 3)その他、検証実施における前提など
- XXXなど、そもそもXXXであったデータは除外した
 - ...etc

結果・考察 どのような結果・考察が得られたか？

- 1)検証結果
- XXXを利用したXXX機能を実装できた
 - XXX(SaaS製品)を利用した際のXXX予測精度はXX%であった
- 2)実現性の評価
- 予測結果を確認したところ、精度に改善余地はあれどXXXを予測することができていたため、XXXの識別には一定活用できそうな感触を得た
- 3)ビジネスインパクトの評価
- XXX、かつXXXと仮定した場合、XXX万円/月の増収が見込める可能性があることがわかった
- 4)今後に向けた考察
- 今後精度を高めるためにはXXXXとXXXが有用である

DX初学者ガイドのご案内



初学者ガイドの内容の通り、演習を進める方へ

DX初学者ガイドでは、初学者の方でも課題に最後まで取り組める様、解答の一例を詳しくご紹介しています。
※あくまで一例の紹介です。

手が止まってしまう方は、初学者ガイドの内容に沿って演習を進めてみましょう。
ただし、課題の提出にあたっては、**必ず自分なりの気付きや考察を加えて、独自に提出資料を作成してください。**

尚、初学者ガイドの閲覧は自由としておりますので、初学者以外の方も、ご自身の仮説や検討を深めるためにご活用いただいて問題ございません。
また、ガイドを見ずに課題にチャレンジしたいという方は、もちろん、その様に進めてください！

**演習04の提出が完了したら、
演習04ページの"データ"タブに掲載の演習04解答例をご確認頂いた上で、
演習05に進んでください。**